

J Sights Corporation

イスラエル GAT 社 冷凍濃縮果汁の生産から撤退

2026 年 10 月 19 日

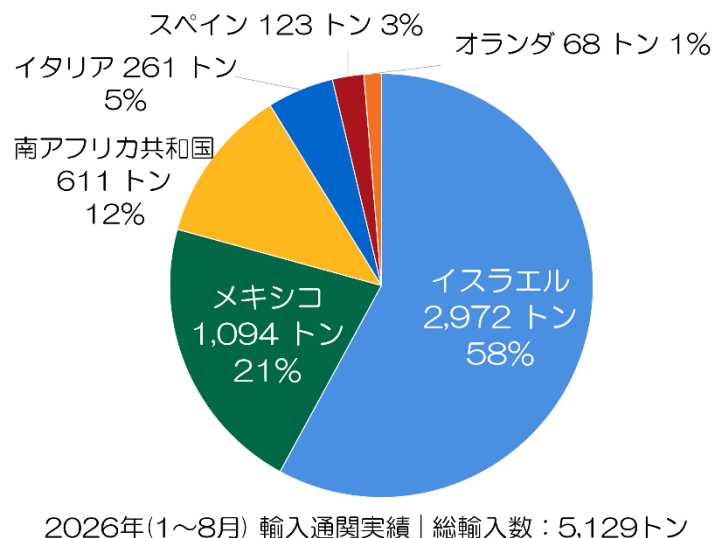
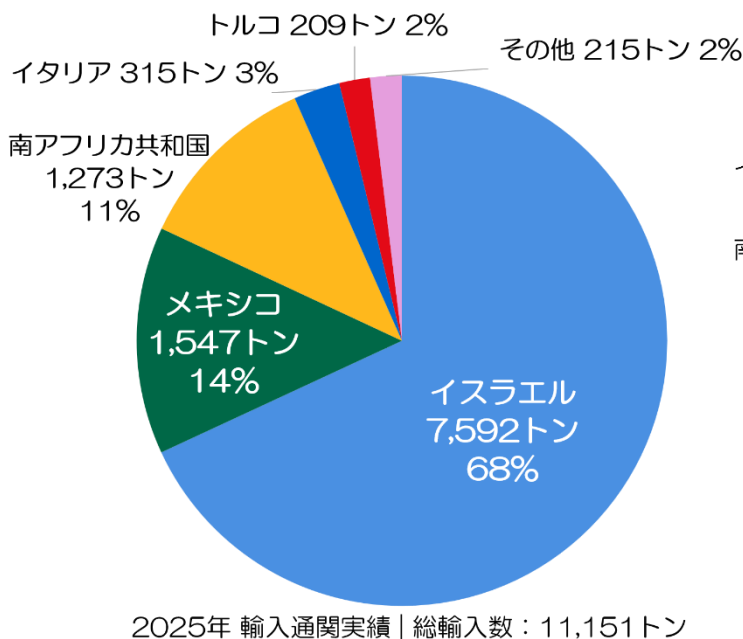
J サイト株式会社

齋藤 政人

弊社は2009年の設立以来、冷凍濃縮果汁を一つの主要品目として取り扱ってきました。現在、主な海外サプライヤーはイスラエル・トルコ・イタリアですが、その中でも主要サプライヤーであるイスラエルGAT社が冷凍濃縮果汁の生産から撤退すると、突然の発表がありました。同社は日本向けには主にグレープフルーツ（GF）・レモン・オレンジといったシトラス系冷凍濃縮果汁を輸出していましたが、突然の発表で業界を驚かせたことは既にご存知の通りと思います。

なぜ撤退したのか？についてはいろいろな憶測が飛んでいますが、同社の公式説明は「儲からないから」の一点のみです。ガザの影響についても問い合わせましたが、現在、イスラエル国内ではこの紛争（戦争）の影響はもうさほど大きくなく、一時期避難していた果樹園の出稼ぎ労働者は戻ってきており、工場の人員不足も既に解消されているとの説明です。競合他社のガンシュメル・ガニール社が果汁の生産を続けていることから考えると、確かに政治的な影響はさほど大きくなく、あくまでGAT社（と親会社のCBC Group）固有の事情と考える方が妥当と思います。

GF果汁についてはイスラエルが主要な輸入国となっており、GAT社の生産撤退が市場に与える影響は大です。昨年及び今年の輸入通関統計を参照ください。昨年輸入数量の約70%がイスラエルからです。今年は8月までの輸入数量が約5千トンと昨年比激減していることも注目に値します。



J Sights Corporation

また、今回このレポートを執筆するにあたり、弊社が過去発行していたCrop Reportを読み直してみました。2009年の弊社設立以来、このCrop Reportは毎年発行していたのですが、2014年12月のレポート([添付](#))が比較的明確に現在を予測していました。当時はフロリダが主要供給先でしたが、将来はイスラエルがメインになると予想していました。そのイスラエルがGAT社の撤退により、主要供給先としての地位が危ぶまれるというのが現状です。

スーパーやコンビニで見ていただくとよくご理解いただけると思いますが、しばらく前まではGF果汁はホワイトが主でした。苦味と甘みのバランスが日本人好みと言われていましたが、安定的に海外から供給することが難しくなっており、現在、一部の製品はピンクGF果汁等に置き換わっています。時代の流れをつくづく感じる次第です。

弊社は過去からこうした事態を想定・予測しつつ、海外仕入先の開発・確保に注力してきました。弊社の取引先として、トルコ・イタリアからGF果汁の輸入が可能と申し上げているのは、過去から継続して努力してきた賜物です。イスラエルGAT社の冷凍濃縮果汁生産撤退に伴い、既に数社から新たな仕入先確保についてご相談をいただいております。安定した取引(数量面・品質面・価格面)を目指しつつ、引き続き弊社としてどういう貢献ができるか日々考え努力してまいります。ご用命がありましたら何なりとご指示ください。

以上

[お問い合わせフォーム](#)